

事例紹介

プログラム助成

会津若松ザベリオ学園中学高等学校(福島県)
自作大型養殖水槽による産業の創造
～温泉街の魅力創造プロジェクト～

東日本大震災から11年。自分たちの力で会津の新しい魅力を創造しようと、地元温泉熱を活用したウナギの養殖に挑戦している。学校敷地内に自作大型養殖水槽を設置し実験を開始。温泉街の廃旅館の浴槽を使っ



個別助成

桶川市立桶川東中学校(埼玉県)
外来種アメリカザリガニから始める環境・科学教育

身近に生息するアメリカザリガニを題材として、外来種としてただ駆除する対象ではなく有効活用する方法を探りながら、外来種に対する理解、生物多様性保全について考えることとした。荒川河川敷でのアメリカザリガニの捕獲、大学での生態系に関する講義の受講やアメリカザリガニの試食のほか、生物濃縮の教材として、自作の脱色餌や着色餌による体色変化の観察実験や脱皮殻の薄層クロマトグラフィーによる色素展開の実験も行った。



個別助成

松江市立皆美が丘女子高等学校(島根県)
宍道湖・中海 汽水湖Map
～汽水湖の塩分濃度の場所による違いを電池のしくみを用いて視覚的に捉える一工夫～

汽水湖である宍道湖と中海、それらを繋ぐ大橋川や剣先川、朝酌川。学校周辺を流れるこれらの川の水を、塩分計やpH計、自作金属探知機などで調査しデータ化、塩分濃度など水質の違いを視覚的・聴覚的に示していこうと実験を開始した。その結果、剣崎川の塩分濃度が刻々と変動し、逆流や潮汐が見られることなどの知見を得た。今後はその自然現象のメカニズムの解明を進めるべく、近隣の複数の高校を巻きこみ、水質調査の協力を得る等で水質データを更に収集し、継続して研究していきたい。



Case Study

銚子市立銚子西中学校(千葉県)
ふるさと銚子の自然と命を守る態度を養う理科学習プログラム
～理科を核とした防災・環境・SDGsの教育～

銚子は海と大地からの自然の恵みにより発展してきた地域である。またゼロカーボンシティを宣言し近い将来風力発電の街になる。当銚子西中学校もすべての電気エネルギーを風力発電で賄っている。そういった環境を活かし、防災教育、環境教育、SDGsの取組を相互に補完する学習プログラムを構築し、地層観察や発電所見学、地元企業の講演会を実施。授業で学んだことが現実社会でどのように活かされているのかを知る取り組みにより、地域の自然環境を理解し持続可能な社会の実現に向けた資質を育むことができた。



三重大学教育学部附属小学校(三重県)
ドローンとVRを活用した河川防災教育プログラムの開発と実践
～雲出川の治水について学び続ける子ども～

日本各地で水害が頻発している。子どもたちに河川防災についての正しい知識を身に付けさせ、自らの命を守る判断ができるようにすることが必要不可欠である。洪水を防ぐ流域治水の理解には地上での観察や調査だけでは把握しにくいことが多い。そこで、ドローンと360°カメラで撮影し、VR映像を制作にすることで河川構造物や土地の様子を俯瞰的に捉えられるようにした。その結果水害を自分事として考えられるようになった子どもたちが、VR映像だけでは満足できず現地調査やインタビューに出かけるなど、主体的に探求を深めようとする姿が見られるようになった。



意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

京都理科学研究会(京都府)
理科が苦手な担任や理科専科教員に対する支援を強化し、理科好きの子どもたちを育てる

小学校現場では昨今急速に理科教員の専科制が進んでいるが、理科を苦手と感じていたり、教材準備の時間が確保されず日々の授業が不安で困っていたりする専科教員も多い。理科好きな子どもたちを育てるには、先生が理科を楽しみ、自信をもって授業する必要があるとして、新教材の開発や授業研究に取り組み、広く汎用することを目指している。アプリの理科授業支援チャンネルでいつでも質問できる環境を整えるほか、実験マニュアルの配信やタブレット活用事例の紹介などを実施してきた。コロナ禍により対面での研修や交流は難しくはなったが、より積極的な活用が広がった。



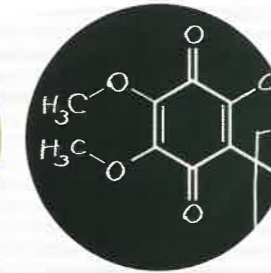
文部科学省後援

科学教育振興助成



その感動が 未来を創る

科学の学びを通じて子どもたちの 興味と体験の橋渡しをする助成金のご紹介



令和5年度助成の

令和4年

応募期間が変更となっています

募集期間 10.1(土) - 11.30(水)

科学教育を通じてつくる、 発展するチカラ。

中谷医工計測技術振興財団は、将来を担う子どもたちの論理的思考力や創造性を育み成長させることが、科学技術の発展はもとより我が国の発展に寄与するものと考え、小学校、中学校、高等学校における科学教育振興を目的とした取り組みに対して助成する事業を平成26年度より実施しています。

さらに、理科好きの小学生を増やすため、意欲的な小学校の先生方を支援する取り組みも行っています。この助成が、科学教育発展にご尽力いただいている皆様の一助になればと考えています。

中谷医工計測技術振興財団とは

中谷財団は、シスメックス株式会社の創業者・中谷太郎が昭和59年に「中谷電子計測技術振興財団」として設立しました。その意思を継いだ子息の中谷正の遺贈を受け、平成24年に大きな事業が行える財団へと生まれ変わりました。同年には、公益財団法人に移行し現在の財団名となりました。

当財団は、医工計測技術の広範な発展を推進し、社会および国民生活の質の向上に寄与することを目指しています。医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核として技術開発に顕著な業績をあげた研究者への表彰や技術交流への助成等の事業を行っています。

また、若手人材育成のため、科学教育振興をはじめ大学生の留学サポートや大学院生向け奨学金等の助成事業も行っています。

プログラム助成

助成対象

広く科学教育を振興するため、小学校、中学校、高等学校等の複数校の児童、生徒が主体的に共同で行う2年間の活動。
※地域特性を活かした取り組みを重視します。

助成金額

最大100万円×2年間

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校。
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。
※高等専門学校は、1～3年生が対象となります。
※2年間継続して活動いただける組織に限ります。

個別助成

助成対象

小学校、中学校、高等学校等における児童・生徒の科学に対する関心を高めようとする授業やクラブ活動等。
※地域特性を活かした取り組みを重視します。

助成金額

最大30万円×1年間

応募資格

上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。
※高等専門学校は、1～3年生が対象となります。

意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成

助成対象

子どもたちの理科の力を向上させるための指導法の改善や学習法の開発などに取り組む意欲的な小学校の先生方、または先生方を支援する機関の3年間の活動。
※複数の学校が、研究機関(博物館、科学センター、大学等)や教育センター等と共同で行う活動。

助成金額

最大100万円×3年間

応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。
※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。
※先生方の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。
※3年間継続して活動いただける組織に限ります。
※複数の小学校の参画に限ります。

- ◎ 本助成対象は、学校、教育機関であり、先生個人を対象としたものではありません。
- ◎ 特別支援学校等も対象です。
- ◎ 個別助成、プログラム助成は児童・生徒が主体的に行う活動が対象です。

令和5年度助成の
募集期間

令和4年

応募期間が変更となっています

10.1(土) - 11.30(水)

助成採否のご連絡は
3月上旬に致します

応募方法

当財団ホームページにて、募集要項を確認の上、ウェブシステムよりお申し込みください。
(募集期間前の入力はできません)

ご応募の前には、必ずHPのQ&Aをご覧ください。

応募の流れ



過去の助成数

| 回数 | プログラム | 個別 | 小学校の先生支援プログラム |
|------------|-------|-----|---------------|
| 第9回(令和4年度) | 33件 | 59件 | 14件 |
| 第8回(令和3年度) | 33件 | 60件 | 19件 |
| 第7回(令和2年度) | 31件 | 62件 | 16件 |
| 第6回(令和元年度) | 27件 | 63件 | 11件 |

お問い合わせは、下記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします

最新情報については、ホームページをご覧ください。

<https://www.nakatani-foundation.jp/>



詳しくは

中谷財団

検索

New Program

大学・高専を対象とした
5年間の理系人材育成プログラム助成が始まります。

詳しくはHPをご覧ください。